

真岡市議会議員

お世話になります！

中村かずひこ通信

【発行元】中村かずひこと未来をつくる会 〒321-4362 真岡市熊倉町3423-4
Tel. 0285-82-6285 e-mail tonpei@i-berry.ne.jp
ホームページ <https://www.nakamurakazuhiko.com>



vol.78



一般質問が実現します！

令和5年度から！

その1 子ども医療費無料化 高校3年生まで拡充！

これまで真岡市では、子ども医療費無料化の上限が中学3年生でしたが、令和5年度から高校3年生にまで拡充されます。

その2 乳児紙おむつ購入助成券支給世帯にごみ袋支給！

『乳児紙おむつ購入助成券支給事業』の対象世帯に、令和5年度からごみ袋の無料配布が実施されます。

おむつ給付
高齢者・障がい者の対象拡充も

高齢者や障がい者が対象の『ねたきり高齢者等紙おむつ給付事業』について、支給対象者を従来の要介護4以上から、要介護3以上に拡大していく考えが示されました。

※正式決定は、令和5年度の予算成立後になります。

9月定例議会報告 9/5▶9/30

9月定例議会が、9月5日(月)から30日(金)の26日間にわたって行われました。

今回、執行部から提出された議案は、令和3年度の一般会計・特別会計・公営企業会計の決算のほか、『犯罪被害者等支援条例』の制定など計18件で、いずれも原案通り可決されました。

代表質問

議員による質疑・一般質問は、12日(月)、13日(火)の2日間行われ、中村は12日の2人目に登壇。会派『もおか新時代』を代表して、5件の課題について質問しました。



決算審査特別委員会

また、28日(水)に行われた『決算審査特別委員会』で、中村は以下の項目について質疑を行いました。

1. 障がい児通所支援事業費について
2. 子どもの学習支援事業費について
3. 児童福祉総務費について
4. 児童措置費について
5. 生活保護扶助費について
6. 農業委員会費について
7. 井頭周辺農業拠点整備に係る事業化推進事業費について
8. 奨学資金貸付事業費について
9. もおかライブラリー教室運営費について
10. 教育振興費について

中村が行った代表質問の内容

1. 今後の財政運営について

- (1) 今後の市債償還予定額について
- (2) ふるさと納税の収支状況と財源確保に向けた取り組みについて

2. 教育分野の諸課題について

- (1) 学力向上や探求型学習などの課題について
- (2) 不登校の現状と今後の対応について
- (3) コミュニティスクールについて
- (4) 学校図書館における専任司書の増員について

3. 福祉分野の諸課題について

- (1) 子ども医療費の対象年齢引き上げについて
- (2) 紙おむつ券支給世帯に対する無料のごみ袋配布について

4. 産業分野の諸課題について

- (1) 起業家への支援策について
- (2) 有害鳥獣対策の取り組みについて

5. 芳賀地区広域行政事務組合が進める畜場の整備について

- (1) 最有力候補地が下大田和地内になった理由について
- (2) 地元説明会の状況について
- (3) 今後のタイムスケジュールについて

議会での質問の様子が、インターネットの録画配信でご覧いただけます。



現在、中村のホームページに「新型コロナウイルス感染症」の支援策などを掲載しています。



中村のホームページ

次回発行予定日

次回の「中村かずひこ通信」は

2月5日(日)

発行予定です。新聞の折り込みチラシをご覧ください。

政策をカタチに

建議要望を市長に提出

9月定例議会の最終日である30日(金)、中村が代表を務める会派『もおか新時代』は、令和5年度の予算編成に関する38項目の建議要望を、石坂市長に提出しました。





中村かずびと議会レポート

9月定例議会 代表質問



質問のやりとりが、インターネットの動画でご覧いただけるようになりました。

【答弁者】

石坂 真一	市長
山中 孝雄	教育長
水沼 保彦	総合政策部長
長谷川佳孝	市民生活部長
仁平 明	健康福祉部長
滝田 真	産業部長

1. 今後の財政運営について



質問 真岡市の市債(借金)が最も多かったのは、平成12年度の651億1,936万6千円。その後、市債残高は年々減少し、令和元年度は481億913万9千円で、ピーク時と比べて170億1,022万7千円削減している。ただし、今後も複合交流拠点の建設など、大型の公共事業が計画されている。将来的な市債償還の予定額をどのように見込んでいるのか。

答弁 真岡市では、新規に発行する市債を、その年の元金償還額の範囲内に抑えることで、市債残高の削減に取り組んできた。真岡市と二宮町の合併直後と比べて約50億円削減している。今後も、市債発行を元金償還の範囲内に抑えるとともに、より有利な市債や基金を活用し、過度の財政負担とならないように留意していく。

質問 令和3年度、真岡市にふるさと納税として4,434万5千円が納められた。そこから謝礼品代やシステム使用料などの経費を差し引くと、1,918万6千円の黒字になる。しかし、この金額から真岡市民が他の自治体にふるさと納税で寄付した金額を差し引かないと、正確な実態は把握できない。最終的な収支状況はどうなっていたのか。また、今後の財源確保に向けて、どのような取り組みを行っていくのか。

答弁 令和3年度、真岡市民が他の自治体にふるさと納税として寄付した額は、7,361万3千円であり、最終的に5,442万7千円の赤字であった。財源確保については、今年5月にInstagramによる専用のアカウントを、7月には特設サイトを開設した。また、9月から楽天市場に真岡市のサイトを新たにオープンしたほか、10月からはGoogleとInstagramへのデジタル広告を配信していく。

2. 教育分野の諸課題について



質問 真岡市では、平成28年度に学校教育課に指導係を設け、翌29年度からは市独自の学力調査を行うなど、学力向上に向けた施策を展開してきた。その一方で、新学習指導要領では探求型学習に力点が置かれるようになった。今年4月から山中孝雄教育長が就任したが、学力向上や探求型学習といった課題に、具体的にはどのように取り組む考えなのか。

答弁 真岡市では、「確かな学力の育成」を重点施策の1つに掲げ、学力を県内トップレベルに引き上げるために、市独自の学力調査や、授業力向上のための教員研修、ICTの活用などに取り組み、一定の実績をあげてきており、これまでの施策を継続・強化していきたい。探求型学習については、現在各学校で取り組んでいる『真岡っ子を育てる学習スタイル』を活用し、授業の質的改善を図っていきたい。

質問 令和2年度、全国で不登校の小中学生は19万6,127人。8年連続で増加し、過去最多となった。その一方で、平成29年に『教育機会確保法』が施行され、不登校の子ども達に対して『学校以外の場で学ぶことの重要性』と『学校を休ませる必要性』が法律に盛り込まれるようになった。不登校対策のあり方も、以前とは大きく変化している。真岡市における不登校の現状はどのようになっているのか。また、今後の対応は。

答弁 真岡の不登校率の推移は、次のような状況である

	平成30年度	令和元年度	令和2年度
小学生	0.49%	0.51%	0.66%
中学生	4.01%	3.59%	4.43%

教育委員会では、各学校から出される個別の支援票により、臨床心理士やスクールソーシャルワーカーなどが、実態の把握に努めている。今後は、学校に登校することだけにとらわれず、自らの進路を切り開くことを目標としていきたい。

質問 コミュニティ・スクールは、保護者や地域住民が、学校運営の基本方針を承認したり、教育活動に意見を述べたりできる制度を持った学校のことである。導入した学校では、地域と学校の信頼関係が強化され、教員の多忙感解消や子ども達への指導力向上につながっている。真岡市では、今年度から真岡東中学校が市内初のコミュニティ・スクールとなったが、他校で導入を図る計画はあるのか。

答弁 真岡東中学校では、4月と7月に学校運営などについて話し合いが行われた。また、学校支援ボランティアなどに保護者や地域住民が関わり、学校を核とした地域づくりを進めている。他校への普及については、今年度から真岡東小学校が県の事業のモデル校に選ばれた。真岡東中学校との連携を図りながら、中学校区でのコミュニティ・スクール導入を検討していく。

質問 真岡市では、学校図書館の専任司書を配置し、各校を巡回しながら読書指導をしているが、1校につき1週間で2日程度しか出向くことができない。専任司書を全小中学校に配置している宇都宮市や芳賀町と比べ、図書の出冊数で2~3倍の差があることを見ても、専任司書の増員を考えた方がよいと思うが。

答弁 現在、学校図書館の専任司書は、小学校14校に4名、中学校9校に2名で業務にあたり、学校図書館の充実が図られている。専任司書の増員については、現体制で十分効果が出ているので考えていない。

3. 福祉分野の諸課題について



質問 新年度から、真岡市では子ども医療費無料化の対象を、従来の中学3年生から18歳まで引き上げるとの発表があり、大変嬉しく思っている。今回の対象年齢引き上げに至った経緯、事業の概要はどのようになっているのか。また、市の財政的負担はどの程度見込んでいるのか。

答弁 子ども医療費の無料化を、県内で統一に対応するよう、栃木県市長会議などで提案をしてきた。これを受けて、県は来年度から対象年齢を拡大することになり、真岡市も対象を高校3年生にまで拡大することにした。制度としては所得制限を設けず、窓口において無料で受診できる現物給付とする。財政的負担は、事業費全体で約6,000万円増加するが、県の補助が増えるので、市の実質的な負担額は約1,000万円と見込んでいる。

質問 真岡市では、高齢者や障がい者が対象の『ねたきり高齢者等紙おむつ給付事業』と、乳児が対象の『乳児紙おむつ購入助成券支給事業』を実施している。ただし、使用後の紙おむつは大量のごみ袋が必要であり、ごみ袋を有料としている真岡市の場合、家計への負担が重い。消費税率の引き上げや、コロナ禍による影響が、生活を直撃している中で、子育てや介護に向き合っている世帯に、ごみ袋を無料配布できないものか。

答弁 子育て世帯については、ごみ袋の無料配布により、経済的負担を軽減していくことが重要と考え、来年度からの実施に向けて準備を進めていく。一方、高齢者への支援については、ごみ袋の無料配布よりも、紙おむつの支給対象者を、従来の要介護4以上から、要介護3以上に拡大した方が効果的であると考え、こちらも来年度からの実施に向けて準備を進めていく。

4. 産業分野の諸課題について



質問 この地域を支えてきた企業が撤退を表明している状況にあって、起業家の育成支援はこれまで以上に力を入れるべき課題である。この課題は、市長の当初からの公約だが、これまでの5年半を振り返り、どのように自己評価をしているのか。また、起業家の育成支援や既存の事業者への経営指導を行う『ご当地ビズ』の設置を提案したが、市として何か新たな取り組みは考えているのか。

答弁 平成30年度に新製品開発・販路開拓支援補助金を創設したほか、商工会議所やよろず支援拠点などと連携して事業に取り組んできた。令和元年度からの3年間で、創業セミナーに112名が参加し、30名が創業に至っており、一定の成果があげられていると考えている。新たな取り組みとしては、中心市街地の空き店舗補助において、店舗と住居の機能分離に対応できるよう検討する。

質問 有害鳥獣対策として、今年度からイノシシの捕獲報奨金を2千円ほど増額させた。しかし、周辺の自治体と比べると、さらに拡充を検討する必要がある。また、昨年12月定例議会では、ドローンを活用した有害鳥獣の実態把握も提案をした。有害鳥獣対策の新たな取り組みとして、どのようなことを検討しているのか。

答弁 イノシシの捕獲報奨金を、今年度から1頭あたり1万3千円としたが、今後もさらなる増額を検討していく。ドローンの活用については、イノシシの生息区域が隣接市町にまたがるため、見合わせる事となった。今後の取り組みとしては、罠の作動をメールで送信する監視装置の導入などを検討している。

5. 芳賀地区広域行政事務組合が進める斎場の整備について



質問 芳賀地区広域行政事務組合が進めている**斎場の整備**について、平成28年度に策定された『新斎場建設基本構想』によれば、現斎場敷地が候補地のひとつと考えられていた。そうした中、**最有力候補地**としてこの度**下大田和地内**が選ばれたが、その理由は何か。

答弁 幹線道路からの**アクセス**、**浸水想定区域でないこと**、**1万㎡程度の用地**が確保できることなどから、現斎場敷地を含む4ヶ所を候補地として選び、関係市町の副市長や部課長による評価の結果、**下大田和地内**が**最高評価点**となった。
なお、**現斎場敷地**は、北側が**傾斜地**であることや、現斎場を運営しながらの工事となるため**工期が長くなる**ことなどから評価を下げた。

質問 新斎場の最有力候補地となった**下大田和**とその**周辺の自治会**では、7月以降、住民への**説明会**が行われたとのことだが、参加者からは**どのような意見**が出されたのか。

答弁 下大田和と周辺自治会で**3回の説明会**を行い、**計92名**が出席した。説明会では、選定方法や公表に至る**経過**、**周辺環境**への影響、周囲からの**見え方**、最有力候補地と接する**市道**などの質問や意見が出た。

質問 今後、**斎場建設**にあたっては、基本設計、実施設計、そして建設工事から供用開始まで**最短でも5年**かかる。**地元の理解**を求めていくとなると、**さらに時間**を費やすことになる。今後の**タイムスケジュール**をどのように考えているのか。

答弁 現在、地元の理解を得られるよう、説明会を開催している段階なので、今後の**タイムスケジュール**は**決定していない**。

再質問



学力向上と探求型学習の課題について

質問 山中教育長のスタンスとして、これまで学力向上に力を入れてきた**田上前教育長の方針**を**継続**していくという認識でいいのか。

答弁 現在行われている施策は、学力向上に非常に効果的であり、**継続していきたい**と考えている。

質問 最近、全国各地で認定校が増えつつある『**国際バカロレア**』については、**どのような認識**を持っているのか。

答弁 『国際バカロレア』は、小・中・高が連携し、**大学進学を目的**に行うものという認識を持っている。真岡市には私立校もなく、現時点で**導入する考えはない**。

要望 『国際バカロレア』は、**高知県内の公立小学校でも**取り組まれており、私立校がないから行わないという類のものではないと思う。現実問題として、そうした教育プログラムを受けた子ども達と、**真岡市の子ども達**が近い将来、受験や就職などで**競争していく**ことになる。探求型学習の1つの方法として、導入の是非も含め、学校教育課の教育政策係などで、時間をかけて**調査研究**をしていただきたい。

学校図書館の専任司書について

質問 読書は、学力向上の推進する上で、今大きなハードルとなっている読解力に大きな効果がある。**宇都宮市や芳賀町と比べて、1/2や1/3でも十分**というのは、教育委員会の姿勢として**いかがなものか**と思うが。

答弁 学校図書館に**専任司書**を配置する前と後を比較すると、たとえ**週1日でも大きな効果**があったと感じている。また、学校図書館の利用促進だけでなく、朝の読書の時間なども設定し、子ども達の読書活動の推進を図っている。

質問 子ども達の**読書量**については、**現状で十分**という認識なのか。それとも、もっと**増やすべき**と考えているのか。

答弁 子ども達の**読書量は増やしていきたい**と考えている。ただし、様々な教育課題がある中で**時間は限られている**。そのため、朝の15分間でも読書に興味関心を持たせる取り組みを進めている。

要望 6月定例議会の一般質問で、真岡市に戻ることを希望している若者が減少していることについて触れた。その1つの要因として、雇用の課題もあるのではないと思う。今回、教育課題として学校図書館の**専任司書**について取り上げたが、これは**1つの雇用対策**という捉え方もできると思う。司書の**有資格者を市で確保する意義は大きい**。また、これから**新たな図書館**をつくることを考えても、**子ども達が本と向き合うための環境整備**については、ぜひとも検討していただきたい。

子ども医療費の無料化について

質問 **子ども医療費無料化**の対象年齢を**引き上げた**場合、**国から**財政的に裕福な自治体と見なされ、国民健康保険の**交付金を削減**されるケースがある。今回も削減される可能性はあるのか。

答弁 子ども医療費無料化の対象を高校生まで引き上げた場合、**国からの交付金は約130万円削減**されると見込まれる。

質問 **少子化対策**や**子育て支援**に各自治体が奮闘している中で、**国**がその取り組みに対して**ペナルティ**のようなものを**課している**現状についてどのように考えているのか。むしろ、国からの後押しがあってもいいのではないかとさえ思うのだが。

答弁 子ども医療費の無料化を拡充すると、国民健康保険の交付金が削減されてしまい、財政的に厳しい自治体はなかなか踏み込めない。全国どこでも**格差がないようにすべき**だと思う。そうした中、市長会において問題提起をしたところ、**県が助成の対象を引き上げたことは英断であった**と評価している。

要望 今回、**県が助成の対象を引き上げた**のは、**市長が先陣を切って声を上げた**ことが大きいと思う。しかし、国が自治体にペナルティを課している現状は、決して健全な姿とは思えない。ぜひ、今後は**全国市長会**などの場において、国に対する**働きかけ**をしていただきたい。

起業家の育成支援について

質問 以前に質問した際、県の『**よろず支援拠点**』を活用するとのことであった。しかし、各都道府県に設置された『**よろず支援拠点**』は相談件数が多く、**十分な機能を果たせていない**ことは国も認めている課題である。特に、栃木県の『**よろず支援拠点**』は相談件数が多い。**市独自の相談機能**が必要と思うが。

答弁 栃木県産業振興センター内にある『**よろず支援拠点**』は、真岡**市内から16km程度**のところであり、月2回の出張相談も行っている。**市独自の相談機能**があればいいということは理解するが、運営費が**年間数千万円**かかる。まずは『**よろず支援拠点**』の周知に努めたい。

質問 現在、起業家が相談できる場としては、商工会議所に配置されている**インキュベーション・マネージャー**や『**よろず支援拠点**』があるが、真岡市民が**相談した件数**はどのくらいあるのか。

答弁 令和3年度の実績として、**インキュベーション・マネージャー**への相談が**7件**あった。『**よろず支援拠点**』については、直接出向いの相談が**77社で232件**、出張相談が**44社で71件**あった。

要望 **熊本県天草市**が設けた相談機能は、年間の**運営費が2,500万円**らしいが、それによって**起業件数**が飛躍的に**伸びている**。そうした思い切ったことを行わないと、**新たな活力は生まれ**ないのではないかとと思われる。

斎場の整備について

質問 以前、他県の斎場を視察した際、最新の施設は環境対策などの関係で、規模を大きくする必要があると感じた。したがって、現斎場敷地に建設する場合、**工期への影響**が懸念されることは理解できる。では、**現斎場敷地**に建設した場合と、**新たな敷地**に建設した場合、**費用や工期**に**どの程度の違い**が出るものなのか。

答弁 現時点で、詳細な費用の算出はされていないが、**現斎場敷地**の場合、**傾斜地の造成**などに**相当の費用**がかかるものと考えられている。また、どの敷地に建設をするにしても、**住民への説明は必要**であるとの認識である。

質問 地元の理解を得られるよう説明を行っていきとのことであった。無論、それは当然のことだが、迅速さも求められる中で、**どのような手続き**があった時、**理解が得られた**と考えているのか。

答弁 **具体的なものを考えている段階ではない**が、まずは地域住民の理解が得られるよう進めていきたいとのことである。



報告しつゝ 総務常任委員会

行政視察報告

7月12日(火)～14日(木)にかけて、総務常任委員会では、兵庫県加古川市と芦屋市へ行政視察に赴きました。今回は①スマートシティ構想 ②合葬式墓地の2つがテーマでした。

視察研修 加古川市

「ディシズム」は、オンライン上で市民の多様な意見を集め、政策づくりに役立てる機能で、海外ではバルセロナなど30以上の自治体で導入している。加古川市は、令和2年10月に、国内で初めてこの機能を取り入れた。

加古川市では、河川敷の有効活用法や新しい公共施設の愛称を決める際に、この「ディシズム」を活用し、市民との合意形成を図ってきた。

「スマートシティの最終目標は、便利なまちになることではなく、便利になるプロセスの中で市民の幸福度を高めること」という担当職員の話が強く印象に残った。



視察研修 芦屋市

少子化や核家族化により、墓地の継承者が確保できないケースが増えつつある。そうした中で、一つの大きな墓に多くの遺骨を埋葬する「合葬式墓地」のニーズが高まっている。

芦屋市に「合葬式墓地」が整備されたのは令和3年7月のこと。この施設では4,500体分の納骨が可能となっている。

真岡市でも、令和6年度の「合葬式墓地」開設を目指して現在準備が進められているが、今回説明を聞き、埋葬方法などについて、整備前の段階で市民への丁寧な説明が必要だと感じた。



今回の視察では、右記の金額が公費でまかなわれました。

※当然のことですが、視察中の飲食代は全て議員の個人負担です。

※議員日当(3,300円×3日)の是非については、今後も課題としていきたいと考えております。

総額	79,080円	内訳	交通費、宿泊費、議員日当
出所	議会費のうち旅費		

今回で5回目の受け入れ

大学生インターンシップ事業

8～9月の2ヶ月間、中村は大学生達をインターンとして受け入れました。2020年夏に初めて受け入れを行い、今回が5回目となります。学生達は、政策コンテストで県優勝、全国大会でも上位進出を果たすなど、めざましい活躍を見せてくれました。

今回参加した学生達



野沢 美桜さん
白鷗大学 法学部 2年



新山 正剛さん
白鷗大学 経営学部 3年



海老原 宏樹さん
白鷗大学 法学部 3年
(指導係)



政策内容

- ①小学校内の空き教室を利用した高齢者の健康チェックなど
- ②高齢者の能力を生かした有償ボランティア活動



市議会の傍聴

代表質問や一般質問のほか、常任委員会での議論も傍聴しました。



市内で取材活動

市職員や市内で様々な活動をしている方々のもとを訪れ、貴重なお話をうかがいました。

祝 政策コンテストで 県大会優勝&全国大会上位進出!

事務所対抗による政策コンテスト『未来国会』で、高齢者政策を考えて県大会優勝。全国大会でも予選を通過し、上位進出を果たしました。

コラム むあつが

私が「子ども医療費」について議会の一般質問で初めて取り上げたのは、平成16年の9月定例議会。今から18年前のことになる。

今、子育て中の方々には信じられないと思うが、真岡市では当時、子ども医療費無料化の対象は未就学児まで。しかも、医療機関の窓口で一旦支払った後、その領収書を添付した申請書を市役所に提出し、後日自身の口座に振り込まれるという、何とも複雑なものだった(いわゆる「償還払い」)。

この当時、医療費無料化の対象が中学3年生まで、しかも現物給付で実施していたのは、栃木県内で旧西方町(現栃木市)だけという状況だった。そうしたこともあり、当時の市側の答弁は「実施する考えはない」または「周辺の自治体の状況を見て検討する」ということの繰り返し。真岡市の子ども医療費無料化が「西方レベル」によりやく追いついたのは、平成21年10月のことになる。

『ペナルティ』

～子ども医療費無料化拡充のその裏で～

あれから13年——。子育て支援の自治体間競争が激しさを増す中、いよいよ来年度から真岡市も、子ども医療費無料化の対象が高校3年生にまで拡大される。平成16年当時のことを思い起こすと感慨深くなるのだが、その一方で何とも腑に落ちないものを感じてしまう。

皆さんは、自治体が子ども医療費無料化や現物給付の対象年齢を引き上げると、国から財政的に裕福と見なされ、国民健康保険の交付金を削減される“ペナルティ”が課せられることをご存知だろうか。

真岡市は、新年度から無料化の対象を3学年引き上げるが、それにより交付金が約130万円削減されると見込まれている。自治体にとって多額の財政負担がのしかかるだけでなく、こうした“ペナルティ”の存在が、二の足を踏ませる要因となっている。

わが国において『少子化対策』が叫ばれて久しくなるが、今も有効な手立ては打たれていない。そうした状況であるにも関わらず、真岡市をはじめとする各自治体が、少子化対策や子育て支援に懸命に挑んでいる中で、国がその取り組みに“ペナルティ”を課するというのは、一体どうということなのだろうか。むしろ、国からの後押しがあってもいいのではないかと思うのだが…。

中村がずひご活動日誌

7月	
3日	真岡高校同窓会総会
4日	あいさつボランティア 真岡新聞音訳作業 (「ひばりの会」の活動として)
7日	広報広聴委員会
11日	あいさつボランティア
12~14日	総務常任委員会行政視察 (兵庫県加古川市、芦屋市) NPO法人ドットジェービー 「キックオフミーティング」
16日	
18日	あきる野市議選の応援
19日	会派「もわか新時代」行政視察 (東京都足立区)
21日	大学生インターンとの面談
22~24日	真岡の夏祭り
26日	議員協議会
29日	真岡市遺族会連合会役員会
30日	「わかば会」奉仕作業
8月	
10日	大学生インターン指導日
11日	大学生インターン指導日
15日	栃木県戦没者追悼式 (於:宇都宮市 栃木県護国神社)
17日	大学生インターン指導日
18日	大学生インターン指導日
21日	大学生インターン指導日
24日	とちぎ次世代研究会総会・研修会 (於:さくら市)
25日	全国若手市議会議員の会OB会研修会 (於:東京都千代田区)
27日	コットンウェイ硬式野球倶楽部 全日本クラブ野球選手権大会応援 (於:神奈川県大和市)
28日	NPO法人ドットジェービー「中間報告会」
29日	会派代表者会議 議会運営委員会 議員協議会 広報広聴委員会
31日	代表質問の通告書を提出 大学生インターン指導日
9月	
1日	質疑一般質問調整会議 ※その後、担当課によるヒアリング
4日	大学生インターン指導日
5日	あいさつボランティア 9月定例議会開会 議会活性化等検討委員会
6日	表彰審査委員会
8日	会派「もわか新時代」勉強会
8日	大学生インターン指導日
9日	大学生インターン指導日
10日	NPO法人ドットジェービー「未来国会」
12日	質疑一般質問1日目 ※この日、2人目として登壇
13日	質疑一般質問2日目
14日	真岡青年会議所総会
15日	民生文教常任委員会を傍聴
16日	民生文教常任委員会を傍聴
17日	大学生インターン指導日
18日	大学生インターン指導日
19日	「未来国会」全国大会
20日	産業建設常任委員会を傍聴
21日	交通安全指導(高間木の交差点) 産業建設常任委員会を傍聴 議会活性化等検討委員会
22日	総務常任委員会1日目 広報広聴委員会座談会
23日	NPO法人ドットジェービー「最終報告会」
26日	あいさつボランティア 総務常任委員会2日目 決算審査特別委員会通告書を提出 ※その後、担当課によるヒアリング
28日	会派代表者会議 議会運営委員会 決算審査特別委員会 広報広聴委員会
29日	青山社中CEO 朝比奈一郎氏など面会
30日	全国若手市議会議員の会OB会オンライン交流会 議員協議会 9月定例議会閉会 会派建議要望を市長に提出